

津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と 専門機関の連携に関するプロジェクト

平成 26 年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業）

1. 事業概要

「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」は、平成 26 年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業）の助成を受け、岩手県立博物館を中核館として、陸前高田市立博物館、兵庫県立歴史博物館、宮崎県総合博物館、東京国立博物館、日本博物館協会、NPO 法人文化財保存支援機構が構成するプロジェクト実行委員会が実施する事業です。

2. プロジェクト目的

本事業では博物館施設が壊滅し甚大な被害をもたらされた岩手県陸前高田市立博物館における被災文化財救出と再生への足取りを辿りつつ、1) 阪神淡路大震災以降に形成されてきた文化財レスキューにおける組織連携の在り方、2) 一定の成果を挙げつつある被災文化財の保存修復技術についての技術、知識、経験を全国の博物館関係者と共有化、併せて解決すべき課題を鮮明にし、今後の被災文化財再生の進展に資することを目的としています。具体的には、展覧会、ワークショップ、シンポジウム、ガイドブックの出版などを通じて、これまでの取組の状況を専門家はもとより一般国民へも周知し、取組に対する理解を醸成することを目指しています。

3. 展覧会・ワークショップ

展覧会は兵庫県立歴史博物館（平成 27 年 1 月 10 日から 3 月 15 日）、宮崎県総合博物館（平成 27 年 1 月 10 日から 2 月 20 日）、東京国立博物館（平成 27 年 1 月 14 日から 3 月 15 日）において実施し、ワークショップは陸前高田市立博物館（平成 26 年 8 月 1 日）、三重県立美術館（平成 26 年 11 月 21 日）、兵庫県立歴史博物館（平成 27 年 1 月 16 日）、宮崎県総合博物館（平成 27 年 1 月 23 日）、東京藝術大学（平成 27 年 1 月 30 日）、シンポジウムは東京文化財研究所セミナー室（平成 27 年 3 月 11 日）において実施します。本事業で刊行するガイドブックは、日英 2 カ国語併記とし、国内はもとより国外への情報発信を念頭に置き、企画展及びワークショップで取り扱う内容を紹介します。

本事業の開催を通じて、津波被災文化財の保存処置方法としての安定化処理法の意義と方法が、広く社会に紹介され、博物館、美術館、図書館関係者、保存分野の一人でも多くの方が関心をもち、理解を示していただけることを願っています。



津波襲来（佐藤敏通氏撮影）



博物館での文化財レスキュー活動



旧生出小学校への搬入

奇跡の一本松（野呂智人氏撮影）

2014 安定化処理ワークショップ